

第2章 保幼小連携・接続研修

第2章では、第1期・第2期に引き続き、「学びの連続性と円滑な接続の重要性について学び、連携・接続の在り方について考える」を共通のテーマにして、7名の先生方に講演していただいた内容の概要を掲載します。

また、令和5年度から、大阪市小学校教育研究会と大阪市保育・幼児教育センターとの連携研修を実施し、第1回目として幼児教育・保育と小学校教育の円滑な接続をテーマにして小学校校長対象の研修会を行いました。

第2章－1 令和4年度 保幼小連携・接続研修

第1回

幼児期から児童期への円滑な接続に向けて ～保育・教育の質、連携から接続へ、記録と発信の重要性～

日 時：令和4年6月15日（水）14:30～17:00（保幼小交流会）
会 場：大阪市保育・幼児教育センター
講 師：鳴門教育大学 教授 木下 光二
内 容：連携と接続の課題として、就学前施設と小学校がそれぞれの教育を高め充実させお互いの教育について、よく分かり合うことがまず大切である。幼児期の発達や学びの特質についてよく知り、幼児期は遊び込むことから学びの芽生えが育つことに着眼し、児童期の学びへと繋げ意識して取り組むことが、円滑な「連携」から「接続」そして「架け橋プログラム」へとつながることを学んだ。

第2回

幼児教育と小学校教育の「架け橋」を求めて ～幼児期の遊びから生まれる小学校生活科の存在～

日 時：令和4年9月7日（水）15:00～17:00
会 場：大阪市保育・幼児教育センター
講 師：神戸女子大学 教授 金岩 俊明
内 容：小学校の『生活科』は、幼児教育と小学校教育の「架け橋」をしっかりと渡れるように存在し、就学前施設の生活を繰り返しいきいきと活動する教科である。また、連携は「保幼小」の側に視点を置くことが大事であることを学んだ。生活科の4つの視点や連続性のある保育・教育を構築するために「スタートカリキュラム」が、自覚的な学びに円滑に移行させるための手段の一つであることも学んだ。

第3回

保幼小の連携と接続 ～文科省幼保小の接続期の教育の質的向上に関する検討チームの議論から～

日 時：令和5年1月26日（木）15:00～17:00
会 場：大阪市保育・幼児教育センター
講 師：鈴鹿大学短期大学部 学長・教授 長澤 貴
内 容：OECDの分析（2021 SSVI）を基に、幼児教育の重要性が唱えられ、保育の質の向上には、職場環境とカリキュラムと教育のあり方が重要であることを学んだ。幼保小のカリキュラムの一貫性をもたせること、幼保小の間の教育内容の理解の共有幼保小の指導の連続性が、今後取り組むべき課題であると学んだ。

第2章－2 令和5年度 保幼小連携・接続研修

第1回

生活科でつなぐ幼児教育と小学校教育 ～生活科の実践から考える～

日 時：令和5年7月24日（月）15:00～17:00
会 場：大阪市保育・幼児教育センター
講 師：大阪市立菅北小学校 教諭 竹上 由希子
内 容：小学校の生活科の授業内容を知り、生活科の実践から保幼小の連携と接続につながるポイントについて、グループワークを実施。保育所での豊富な遊びの経験は全ての活動につながる。幼児期の子どもが理屈立てて理解できなくても、感覚や経験を大事にすることが、就学後の学びにつながることを確認し合った。

第2回

保幼小連携・接続のために大切にしたいことと取り組み

日 時：令和5年9月4日（月）15:00～17:00
会 場：大阪市保育・幼児教育センター
講 師：奈良教育大学 教授 学長補佐 廣瀬 聡弥
内 容：保幼小接続の目的と意義について学んだ。架け橋プログラムの進め方では、行動としての教育と制度としての教育や、就学前施設と小学校の学びの方法の相違についても学び、グループワークを通して各園所校の現状を共有した。

第3回

保幼小連携・接続 ～心の育ちについて語り合おう～

日 時：令和5年11月2日（木）15:00～17:00
会 場：大阪市保育・幼児教育センター
講 師：京都大学大学院 教授 大倉 得史
内 容：子どもの生きる世界や、子どもの心のありよう、「心の育ち」に目を向け、一緒に想像することは、深い洞察やエピソード記述のあり方につながる。グループワークで、エピソード事例をもとに「心の育ち」に関して模擬エピソード検討会を体験した。具体的なエピソード事例から一定の共通した理解をもつことの大事さを学んだ。

第4回

遊びや生活の基盤をつくる連携・接続について
～架け橋期の教育の充実を考えよう～

日 時：令和6年1月30日（火）15:00～17:00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：大阪総合保育大学 特任教授 神長 美津子

内 容：「架け橋期の教育」の充実の必要性和期待されることについて、中央教育審議会「架け橋特別委員会」での内容から「架け橋期の教育」の進め方について学び、グループワークでは「架け橋期の教育の充実」のために必要なことについて、現場の状況を含め話し合い共有した。

大阪市小学校教育研究会と大阪市保育・幼児教育センターとの連携研修
「保幼小連携・接続研修会」

幼児教育・保育と小学校教育の円滑な接続
子どもの育ち・学びをつなぐ
～カギを握る管理職のマネジメント～

日 時：令和5年11月8日（水）16:00～17:00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：前大阪市保育・幼児教育センター所長

大阪市教育委員会事務局指導部インクルーシブ教育推進担当 阪口 正治

内 容：校長のマネジメントとして、①自校の「連携・接続」取組状況の把握、②教職員の「幼児期の育ち・学びや教育」についての理解促進、③架け橋期の教育課程の編成の3つのポイントを挙げられた。研修会への参加、就学前施設の保育参観時に施設長等に遊びの中での子どもの思いや育ちについての解説を依頼すること、子ども同士や教職員同士の交流会を実施すること、連携担当の教職員を校務分掌に位置付けることなど、具体的な取組方法を学んだ。